体験型海外実地研究　－第４学年 Culture Education < Arts and Crafts >
Let's enjoy!　Let's exchange!　The「Origami」

所属　東広島市立三ツ城小学校　　氏名　榎並　愛子

1　はじめに

「体験型海外教育実地研究」の具体的な取組みの内容について知り，特に深い感銘を受けたのは６月９日に行われた「第３回学校間国際フォーラム」に参加したときである。様々な国際交流体験や昨年度の「体験型海外教育実地研究」の成果の発表，「グローバルマインドをもつ教員養成のこれから―local から global へ―」をテーマとしたシンポジウム。グローバルマインドを自分の言葉で語ることは難しいけれど，「相手を理解し，ともに生きていくことのできる人間」でありたいという気持ちが心に強く沸き起こった。そのためにも，自分自身が異文化を体験しそのよさを知ること，そして人とかかわることで自分の感性を磨くことが必要だと考えた。この貴重な体験を学校現場で子どもたちに語り，子どもたちに，様々な人たちとよりよく関わりながら生きていく力が必要であることを知らせたいと考えた。そこで，自分のテーマを「ちがいを豊かさに」と設定し，研修することにした。

2　実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	泊
4/11	火	1210－1240　L304　履修等、説明会		
5/31	木	1435－1605　L304　オリエンテーション ミニ講演会・フォーラムの打ち合わせ		
6/8	金	1300－1500　C527　ミニ講演会		
6/9	土	1300－1730　広島ガーデンパレス　第３回学校間交流国際フォーラム		
7/5	木	1435－1605　事前研究１　個別研究テーマの設定 ・授業実践研究の内容と方法 ・日本文化の紹介（エクスプローリス・ミドルスクール）について内容と方法の打ち合わせ		
8/2	木	1435－1605　事前研究２　授業の教材開発と指導法研究 ・指導案，教材，教具の交流と検討		
8/30	木	1330－1605　事前研究３　指導案，教材，教具の交流と検討 ・日本文化の紹介（エクスプローリス・ミドルスクール）について内容と方法の打ち合わせ		
9/11	火	1435－1700　直前打ち合わせ　日程などの確認 ・渡航準備 ・日本文化の紹介（エクスプローリス・ミドルスクール）の内容と方法		
9/15	土	広島－成田 0745－0925 （NH－3128） 成田－ワシントン 1110－1040（NH－2）	6:30　広島空港集合	米国ノースカロライナ州 Raleigh Marriott　Crabtree Valley

		ワシントンーローリー 1240－1359 (UA－459)	15:00 ホテル着，打ち合わせ 18:00 ショッピングモール見学・夕食	4500 Marriot Dr, Raleigh, NC27612 TEL(919)781-7000 FAX(919)781-3059
9/16	日		East Carolina University 事前打ち合わせと準備 18:30 Potlu Dinner at Ledford's,106 Christina Dr.	Greenville City Hotel&Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC27834 TEL(877)271-2616
9/17	月		Elmhurst E.S.(K-5) (Ms. Suzanne Hachmeister) 学校見学 13:00～14:00 授業実践(榎並)	Greenville 同上
9/18	火		Elmhurst E.S.(K-5) (Ms. Suzanne Hachmeister) 授業実践(浅野さん・中井さん・森さん) 16:00 Suzanne 先生の講義見学 ECU の学生と意見交流	Greenville 同上
9/19	水		Duke University Exploris M.S.でのポスターセッション打ち合わせ・準備	Raleigh Sheraton Raleigh 421 S. Salisbury Street Raleigh NC27601 TEL (919)834-9900
9/20	木		Exploris M.S. 日本の中学生の生活紹介 Exploris Museum Natural Museum	Raleigh 同上
9/21	金	ローリーーワシントン 1025－1131 (UA－7139) ワシントンーニューヨーク 1230－1351 (UA－7365)	ニューヨーク見学 20:00 オペラ鑑賞	New York Raddison Lexington Hotel 511 Lexington Avenue 48th Street New York 10017 TEL(212)755-4400
9/22	土		ニューヨーク見学 The Museum of Modern Art	New York 同上
9/23 9/24	日 月	ニューヨークー成田 1230－1525 (NH－9) 成田ー広島 1725－1900 (NH－3129)		機内泊
11/1	木	1330－1615 事後学習会	アメリカで実施した授業の概要、成果、課題等についての発表	

3　実地研究授業

3．1　単元等名　　第４学年　Let's enjoy!　Let's exchange!　The「Origami」

3．2　事前準備

①　単元設定の理由

本単元は，手から手へと受け継がれてきた伝承文化「折り紙」を取り上げる。

折り紙の特徴は２つある。ひとつは四角い紙を切り落とすことなく様々に折ったり切れ目を入れたりすることによって様々なものを形づくれるということ。もうひとつは，喜びの気持ちや願いを込めるという風習があることである。

その代表的なものが「かぶと」や「鶴」である。昔から，子どもたちの健やかな成長を願ってかぶとを折り，おめでたいときや平和・病気の回復を願うときには鶴を折ってきた。「かぶと」や「鶴」は日本人の生活に密着した存在である。

それらを日本の紙文化のひとつとして紹介し，実際に作ることで日本の文化の一部に触れ，それを楽しんでほしいと考えた。また，「折り紙」を通して異なった国の子どもたちどうしが心を通わせることができればと願い，本単元を設定した。

②　準備物とその意図

○　<u>５年生の子どもたちが折り紙で作品を作っている様子のＤＶＤ・折り紙作品集</u>

日本の子どもたちに折り紙文化が根付いていることを知らせ，折り紙に興味を持つことができるように，ＤＶＤや折り紙作品集を見せる。さらに，作品集を見せながら「これは何でしょう」というクイズを出すことで，自分たちも折り紙で何かを作ってみたいという意欲を喚起したいと考えた。

○　<u>クラスの写真・「かぶと」用の折り線を描き入れた日本の広告紙・そらくん</u>

「かぶと」は出来上がりまでの工程が少なく，初めてでも折りやすい。用紙は，折りやすく遊び感覚を味わうことができるように，大き目の広告紙を使用した。また，角を合わせる・折り返すといった作業の感覚をつかむことができるように，用紙にはあらかじめ折り線を描いておいた。

「そらくん」は，昨年度，本校の４年生とエルムハースト小学校の５年生との間を行き来し，子どもたちの目から見たそれぞれの国の文化を交流しあう際のマスコットとして愛されているものである。これからも交流が続くようにとの願いを込め「そらくん」を紹介した。

○　<u>１メートル四方の紙で折った折鶴，折り線を描き入れた折り紙</u>

折り方のﾎﾟｲﾝﾄを分かりやすく示すために提示用の巨大折鶴を用意した。また，その折りを解くことで，多くの工程があることや一枚の正方形の紙から折鶴ができることに驚きをもってくれればと考えた。折鶴は，折る・開くという複雑な折り方が合わさっているため，初めて作る際には難しく時間もかかる。しかし，全ての子どもたちに完成させてほしいため，折り線の色を変えて折り方を示すように工夫した。

○　<u>５年生の子どもたちからの折鶴とメッセージ</u>

日本では折鶴に願いを込める風習があることを知ってほしい，子どもたちどうしがメッセージのやりとりをしあうことでお互いの存在を身近に感じてほしいという思いを込めて，５年生の子どもたちからのメッセージと折鶴を封筒に入れたものを，一人一人に手渡した。

3．3 学習指導案

Lesson Title: Let's enjoy! Let's exchange! The「Origami」

Grade Level : 4th grade
Subject: Culture Education
Arts and Crafts
Description: This lesson is about Japanese traditional culture on "origami" or paper folding. There are two special meanings of making Japanese origami. First, enjoy making various forms using square papers. Second, the Japanese has practice and customs to make a wish using the origami. The most common symbol is the orizuru or crane and the other is Kabuto.
Objectives the lesson: As a result of this activity the students will be able to :
① experience the fun of making Japanese origami.
② exchange their message (wish) written on the crane, Japanese called it orizuru.
Goal: This lesson will help students to comprehend the original meaning of Origami as one of the Japanese culture.
Materials and Equipment: Japanese commercial flyer , origami, Japanese paper, orizuru, orizuru with message from the 5th graders section 1 of Mitsujo Elementery School.
LCD projector, DVD player

Teaching strategy

Student's activity	Teacher's activity	Materials
1 Watch the video of the 5th grade children who are making origami.	Show the different things made from origami such as animals,flowers etc.	DVD player origami
	Ask questions about the origami collection book.	Collection of different paper folding.
2 The students will make "Japanese Kabuto" using Japanese commercial flyer and put them on their heads.	Introduce what is Japanese Kabuto. Teach how to make kabuto.	Japanese commercial flyer A big picture of my students with Kabuto.
3 The students will make orizuru with the teacher.	Teach how to make orizuru.	A big origami paper for demonstration on how to make orizuru.
	Talk about Japanese practices and customs in making a wish .	crane chain
4 The students will write their wish or message on the paper , fold them with the crane and send to Japanese children.	Distribute the crane with the written wish on the paper from the my students and collect the orizuru they made.	board and chalk
	Write on the board wish, hobby, what you want to be, message you want to write.	
5 The students will listen about the teacher's impression on the class.	Talk about my impressions and farewell to the class.	

3．4　授業の実際

【授業中の様子】

(1)　導入

子どもたちは，ＤＶＤも折り紙作品集もとても興味深く見てくれた。折り紙作品集は，海の中・動物の世界・忍者・などテーマ別に絵を描き入れて構成していたので，クイズをしたときも答えを見つけやすかった。「そらくん」は日本から来た友達ということで紹介した。

<写真１　クイズに答える児童>

(2)　かぶとを折る

本校の５年生の子どもたちが新聞紙で作ったかぶとをかぶっている写真を見せて，かぶとについて説明した。描き入れた折り線を活用しながら折り進め，全員作ることができた。子どもたちは，折り方が分からないときは手をあげ積極的に聞いてきた。

<写真２　かぶと完成！>

(3)　鶴を折る

巨大な鶴を見せたら「鳥」「鶴」とすぐに反応が返ってきた。折った鶴を開いていくにつれ，１m四方の巨大な折り紙が形を現してきたことに驚いていた。子どもたちには，折る場所によって折り線の色をかえた折り紙を配り，一つ一つの工程を一緒に折っていった。

<写真３折り線に興味を示す児童>

他の実地研究のメンバーにも子どもたちの間に入ってもらって，個人差に対応できるようにしたが，「開いて折る」という作業は難しく時間がかかった。しかし，途中であきらめたり投げ出したりする子はおらず，きちんと手を挙げて「教えてほしい」という意思表示をしてくれた。おかげで，全員が鶴を折り上げることができた。

<写真４　鶴を折る児童>

(4)　本校の５年生からのプレゼントを手渡し，返信のメッセージを書いてもらう

子どもたちからのプレゼントは，封筒の中に和紙で作った折鶴と英語で書いた手紙をいれたものである。子どもたちのメッセージは，日本の代表的な行事，広島県の名物，酒都西条のこと，自分の頑張っていることや趣味，将来の夢，平和への願いなど様々であった。エルムハースト小学校の４年生の子どもたちは静かにそれを読み，一生懸命それに対するメッセージを書いてくれた。本校の５年生のほうの人数が多かったため家に帰ってまで二人分のメッセージを書いてくれた子もいた。

<写真５メッセージを書く児童>

<写真６そらくんと児童>

<写真７そらくんとビリーくん>

<エルムハースト小学校４年生からのメッセージ(一部)>

Dear ・・・.
Hi! My name is ・・・and I go to Elmhurst Elemetary and I love it here! We have lots of things to do around here. This afternoon When I get home I will get my first violin! And my dad said that when I get good enough he will let me play his! Anyway I have a dog named Pepper and he is so cute! May be I will send you a picture of him. I love to swim too. From ・・・.

Dear ・・・.
America is so much fun. My name is ・・・. I love iceskating. I love the crane. That was so nice. I am not so good at making cranes. It is so cool to talk to you! Love ・・・.

Dear ・・・.
I think your hand writing is beautiful too. I don't have the best hand writing. I really liked your crane ,thank you. My name is ・・・. I like your name it is very pretty. Do you ever ride your bike? What is your favorite activity to do? I'm really glad we get to be penpals. Are you?

３．５ 考察

○ 全員に鶴を折ってもらいたいという願いを持ち，様々な準備物を用意した。準備したものは，それぞれの場面で子どもたちの関心を高めたり「かぶと」や「鶴」を折る際の助けになったりした。

○ 本校の５年生からの折鶴とメッセージはとても喜んでくれた。返信のメッセージの中には，５年生のメッセージに対する答えや自分の趣味，頑張っていることなどが記されていた。「いつか会いたいに行きたい」「文通しませんか？」「あなたの好きなことは？」など，またこちらから手紙を送りたくなる内容のものがたくさんあった。

○ 本校の５年生にとってもエルムハースト小学校の４年生にとっても相手と直接は会えないけれど，心の交流は芽生えていると感じた。相手に何かを伝えたい，伝えられたことを最大限に受け取りたい…そんなお互いの子どもたちの気持ちが伝わってきて，これが，グローバルマインドの第一歩なのではないかと感じた。

● 準備物に頼りすぎて，英語で的確に指示を出すことができなかった。「何をどうする」というやり方の指示，「こうするともっとよくなる」というアドバイス，自分なりに一生懸命折っていることへの賞賛の言葉…どれも不十分であった。

● 「鶴」を折ることのみが目的のような授業を展開してしまい，「折鶴」のもつ文化的背景に十分に触れることができなかった。日本文化を伝えるための授業としては不十分であった。

4　体験型教育実地研究における自己変容

4．1　教育観の変容

① 子ども観

アメリカで私が出会った子どもたちは，授業中に分からないことがあれば自主的に手を挙げて質問したり，先生が示した物が見えなければ席を移動したりして学習していた。わからないことをそのままにしない態度はとても立派であり，「学ぼう」という気持ちが話を聞く態度や，教師に向けられた視線にも表れていた。中学校では，一人一人が目的意識をもって学習し，課題を解決するための学び方が身についていることに感心した。

日本の子どもたちは，基礎的な学力はついているが，考えることを億劫がり，考えを活用する力が弱い傾向にある。Exploris M.S.の校長先生が話された「How you learn is as important as what you learn.」という，言葉が心に強く残っている。

② 授業観

教師は，たくさんの賞賛の言葉をもち，一人一人やクラス全体の状況に応じて体全体でほめ，子どもたちのやる気を喚起したり学習に対する充実感を味わわせたりしていた。また，「何ができるようになればよいのか」「そのためにどうすればよいのか」を授業の始めにきちんと示し，学習形態を工夫しながらゴール目指して学習が進められていた。教師は，指示や発問に対して「わかった？」と確認することをしない。子どもたちが，わかった・質問があるということをきちんと意思表示できているからである。授業を受ける児童は決して受身的ではなく，教師と児童とで授業をつくるという雰囲気ができていることがすばらしいと感じた。

③ 学校観

子どもたちもは，初対面の私たちに対してとても温かく接してくれた。すれ違うときの笑顔でのあいさつ，ドアを開けて招き入れてくれる態度，自分のほうから歩み寄り話しかけてくれる子どもたち。人とのかかわりを大切にするあたたかい校風を感じた。また，各教室には言葉にこだわった掲示物やシンキングマップのような考え方を図式化したものなどが思い思いに張られており，各教師の願いやこだわりが伝わってきた。シンキングマップは，筋道立てて考えたり，考えを整理したりする際には大変有効である。考え方の「型」を示し，必要に応じて児童がそれを選び活用できるようになれば，「論理的思考力」を育てることにつながると考える。

4．2　自分自身についての変容

○ 日常生活のなかで

私は，街の中，建物の中などでアメリカの人たちから何度も「Excuse me.」という言葉をもらった。アメリカの人たちは人の前を横切るときや相手をちょっと立ち止まらせてしまったときに，即，この言葉を口にした。今の日本では，人の前を通ったり行く手をさえぎったりする際にするジェスチャーはあるが，「失礼」や「すみません」を日常的に言う習慣はない。レジでの会話「Thank you」「You are welcome」も日本ではめったに聞かれない。日本では「人の行く手をさえぎるのはしかたがないこと」「買い物をしたのに御礼を言うなんて」という自己中心的な感覚が蔓延し

ているのではないだろうか。あいさつは初対面であっても心の交流を生む。日常的にあいさつすることを心がけ，現在自分なりに実践しているところである。

○　教師として

学ぶ過程の中で，一人一人を思い切りほめる教師の姿が印象的だった。手を挙げて質問したこと，うまくできなくても最後までやりきったこと，みんなの前で何かを表現しようとしたこと…できたできないの評価ではなく，やる気や頑張ろうとする態度を賞賛し，うまくいかなかった経験も尊いことだということをほめることで子どもたちに教えていた。私も，「ほめることは子どもの学びも人格も育てる」ことを肝に銘じ，日々，子どもたちと向き合いたい。

4．3　グローバルマインドに関する変容

アメリカでの生活の中で，自分が異質な者だと感じたことは一度もなかった。自分の行き先をかえてまで道案内をしてくれた人，私たちが日本から来たことを知ると，日本は自然が美しいすばらしい国だとほめてくれた人…多くの人たちが，初対面の私に温かく接してくれた。

もしも，自分が逆の立場だったらどうだろう。日本で外国の人に出会うと躊躇してしまう。言葉が通じないのでは…という不安から関わることを避けようとしてしまう。日本しか知らなかった時の私は「ちがい」を過剰に意識しすぎていたことに気づいた。アメリカに行き，多くの人たちに温かく接してもらったおかげで，言葉が最大の壁なのではなく，自分と相手との違いを意識するあまり，かかわりを避けようとする心の壁があったことに気づいた。今は，自分が受け入れてもらえたからこそ自分も相手を理解したい・受け入れたいという気持ちを強くもっている。

「ちがい」は，歴史的に見ても偏見や差別を生んできた。現在でも「同じ」ということに安心感をもち，「ちがい」を排除しようとする出来事が起こっている。しかし，今回の体験型海外実地研究に参加させていただいたおかげで，人の考え方ひとつで，「ちがい」は今までの自分のものの見方や考え方を拡げ，自分が豊かになるきっかけにもなるのだという思いを強くした。グローバルマインド…それは人とのかかわりの体験の中でこそ培われるものだと思った。

5　おわりに

今回の研修を計画・実施してくださったＧＰＳＣの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。体験型海外実地研究に参加する機会を得たことで，自分自身の教育観や考え方の幅が，ずいぶん拡がりました。体験から学んだことを，これから日常生活や学校現場で生かしていきたいと思っております。

また，ノースカロライナ州で私たちの研修を受け入れてくださった関係者の方々にも，心より感謝申し上げますとともに，今後のＧＰＳＣのさらなる発展を心よりお祈りいたします。

参考・引用文献

・人権の絵本(大月書店)